

発表：日本語スタンダード実践 対象学年 4・5・6 年生

Ts. ツェツェグマー（ナラン外国語学校）



<資料の補足>

- ・教材作りは、2週間に1回の勉強会や、その他開いている時間を使って協力して行ってきた。今もそのようにして続けているところ。

絵・Can-do 提示、CD によるインプット等、ステップごとに授業風景の紹介ビデオあり。

実際の授業で心がけていること

- ・CD を聞いて学習者がわからない時は、理解を促すような質問を教師がするなどして助ける。
- ・問題の答え合わせの際、ただ答え合わせをするのではなく、教師と学習者が話すようにする。
- ・文法問題で学習者が考えているとき、教師は話さず、学習者が自分で考えられるようにする。
- ・「ともだちにききましょう」では、座って隣の友達だけに聞くのではなく、立っているいろいろな友達のところへ行き、聞けるようにする。

スタンダード授業について、4-6 年生 187 人を対象にアンケート調査を行った。

1. 前の授業と今の授業で変わりましたか。⇒変わった：99.4%、変わっていない：0.6%

“変わった”という答えの中には、「今は学習者中心で書くことと聞くことを一緒にやっているからわかりやすい」「よく話せるようになった」という意見があった。

4. 今の授業で面白くないこと。⇒面白くないことはない：93%、面白くないことがある（7%）

“面白くないこと”として、「字と字のあいだに間を取っていないとき、読むのが面白くない」という意見もあった。

6. こうしてほしいと思うこと。

“その他”の意見として、「友達と話す練習を増やしてほしい」という意見があった。

※アンケートの結果は、クラスの学習者数や年齢、教師の経験にはあまり左右されず、偏りは見られなかった。

スタンダード実践における問題点

- ・ 学習者の保護者は教科書があることに慣れているので、教科書がないことについてよく聞かれる。（宿題をどうやらせるか、これから何を勉強するか等。）
- ・ 学校によって授業時間数が異なる（週の授業数のほか、学習する年数も異なる。）ため、各学校間で協力して統一教材を作成しても、他の学校と同時に進むことができない。
- ・ 今は浮田さんや片桐先生が教材作成に協力・指導してくれるが、そういった専門家の協力が引き続き必要。